

西枇杷島地区の保育ニーズ対応計画（案）

1 西枇杷島地区の保育ニーズの状況

市内には13保育園、2幼稚園を有しているが、西枇杷島地区には保育園が1園、幼稚園2園体制で、この地区の保育ニーズに応えられない状況になっているため、他地区の保育園に通園している園児が年々増している。

■西枇杷島保育園の園児数の状況（各年10月1日現在）

区分		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
園名	定員	乳児	幼児								
西枇杷島	130	44	83	46	79	48	79	46	83	39	89

※ 西枇杷島保育園は自園給食方式のため、現状以上の給食数を確保できないことから、入所定員を増やすことができない。

■西枇杷島地区から他地区の保育園に通園している園児数の状況（各年10月1日現在）

園名	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
	乳児	幼児								
他地区保育園	22	28	19	36	19	39	31	37	36	43

※ 西枇杷島地区から他地区の保育園に通っている園児数が、年々増加している。

■公立幼稚園の入園状況（各年10月1日現在）

園名	定員	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
		幼児	幼児	幼児	幼児	幼児
西枇杷島第1幼稚園	270	171	142	161	171	200
西枇杷島第2幼稚園	250	125	122	126	121	116

※ 清須市の公立幼稚園の入園状況は、西枇杷島第1幼稚園は微増傾向、西枇杷島第2幼稚園は微減傾向となっている。

■西枇杷島地区の乳幼児数の状況（24年8月1日現在）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
189	161	178	156	173	173

※ 西枇杷島地区の乳幼児数は、多少の増減を繰り返しながら、横ばいと推測される。

基本的な考え方

西枇杷島地区の乳幼児数と保育ニーズの状況から、幼稚園と保育園を合わせて3園で対応。保育ニーズの対応を重点課題とし、併せて、幼児教育のニーズに配慮。

2 西枇杷島保育園における給食センター方式への移行

- 保育園給食については、西枇杷島保育園も含めて、平成20年に構造改革特別区域計画の認定を受けており、新給食センターの竣工に合わせて、他の施設と同様に外部搬入方式に切替えることになっている。
- 平成25年度中に外部搬入方式にすることにより、調理数を増やして、現在の定員130人を平成26年度には150人に改める。

3 西枇杷島第2幼稚園における保育園化への移行

■これまでの意見の概要とその対応についての考え方

区分	意見の概要	対応
主な賛成意見	○西枇杷島地区の保育ニーズへの対応が必要	○保育ニーズの対応に向けて保育園を整備
	○共働きなどの就労支援の対応が必要	
	○乳児保育や長時間保育の対応が必要	
	○幼稚園の授業料が低い	
主な反対意見	○保育園への移行を早急に	○保育料、授業料の見直しを検討
	○第2幼稚園の園庭が狭い	○新たな場所で保育園を整備
	○駐車スペースの確保が難しい	
	○第2幼稚園の前面道路は7-9規制なので送迎が課題	
	○幼児教育のためには幼稚園が必要	○保育園でも幼児教育を取り入れた保育を実施
	○保育園を新設して幼稚園を存続	○西枇杷島地区の乳幼児数からは3園での対応が適当
	○幼稚園ニーズへの対応	○第1幼稚園で対応。保育園や私立幼稚園の選択もできる
○入園児への配慮	○平成25年度入園児が卒園後の平成28年度に移行	
○就労していない場合の対応	○定員範囲内で私的契約児として受け入れ	

整備方針

保育ニーズに対応するために、新たに温水プール跡地に保育園を新設して、西枇杷島第2幼稚園は閉園する。

メリット：新築のため耐用年数が高い、たんぼぼ園の駐車場の活用、たんぼぼ園との交流、園庭を今よりも広く確保、子育て支援センターの設置など